ISSN 0919-4657

KONC

関西自然保護機構会報

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

18巻2号（通算32号）

シンポジウム●移入生物による生物相の攪乱
特集●野生生物の保護と国際条約



1996年12月
関西自然保護機構

表紙の言葉

「ハクビシン」　　写真・文　宮崎　学

長野県伊那谷の山間にある離農した人家を野外スタジオに借りて，もう10年になる。周辺にあった数軒の農家も農業に見切りをつけて，町の中心部に家を建てて出ていってしまった。その農家の敷地に，樹齢200年ほどの椿の木がある。昔はこの椿から，「椿油」をとっていたのだろう。

毎年4月下旬になると，その椿が見事な花を咲かせる。すると，どこからともなくハクビシンがやってきて，巧みな木登りで椿の花粉を嘗めていく。千個の花があれば，ハクビシンは一晩中かけてすべての花に鼻を押し当てて，嘗めていく。農家に置き忘れられた椿だが，帰化動物のハクビシンにはとても大切な餌になっているようだ。

そして，ハクビシンがしっかり授粉をするから，秋になると椿の実がたくさんつく。その実をアカネズミがせっせと拾い集めて巣穴に運び込んでいる。昔は人間のためにあった椿が，ハクビシンやヒヨドリ，アカネズミたちに感謝されているのを見ると，自然は誰にも平等に働いていることがわかって面白い。

伊那谷には今日，離農した農家の「空き家」が目立って多い。そこには柿も梅も無花果もみんな残されているから，季節ごとにハクビシンが出没して食べている。だから，伊那谷では，ハクビシンが確実に増加中である。今日では，タヌキに出会うよりもハクビシンに遭遇するほうが多い。

関西自然保護機構（ＫＯＮＣ：Kansai Organization for Nature Conservation）

ＫＯＮＣはなんらかの形で，専門家として自然環境保護にかかわる人たちを幅広く組織して，自然環境保全に関する各分野での研究を結集し，その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして，1978年に創立されました。

ＫＯＮＣはその活動の成果と，会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて，近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザリー・ボディ（助言勧告機関）として，社会の要請にこたえることを企図しています。

現代，次のような活動をしています。

1．　基礎研究の実施
2．　シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
3．　現地見学会の開催
4．　研究助成金の交付
5．　会報・連絡紙の発行
6．　自然保護に関する基礎資料の収集と配付
7．　自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
8．　国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は，個人会員・推持会員の会費により，まかなわれています。